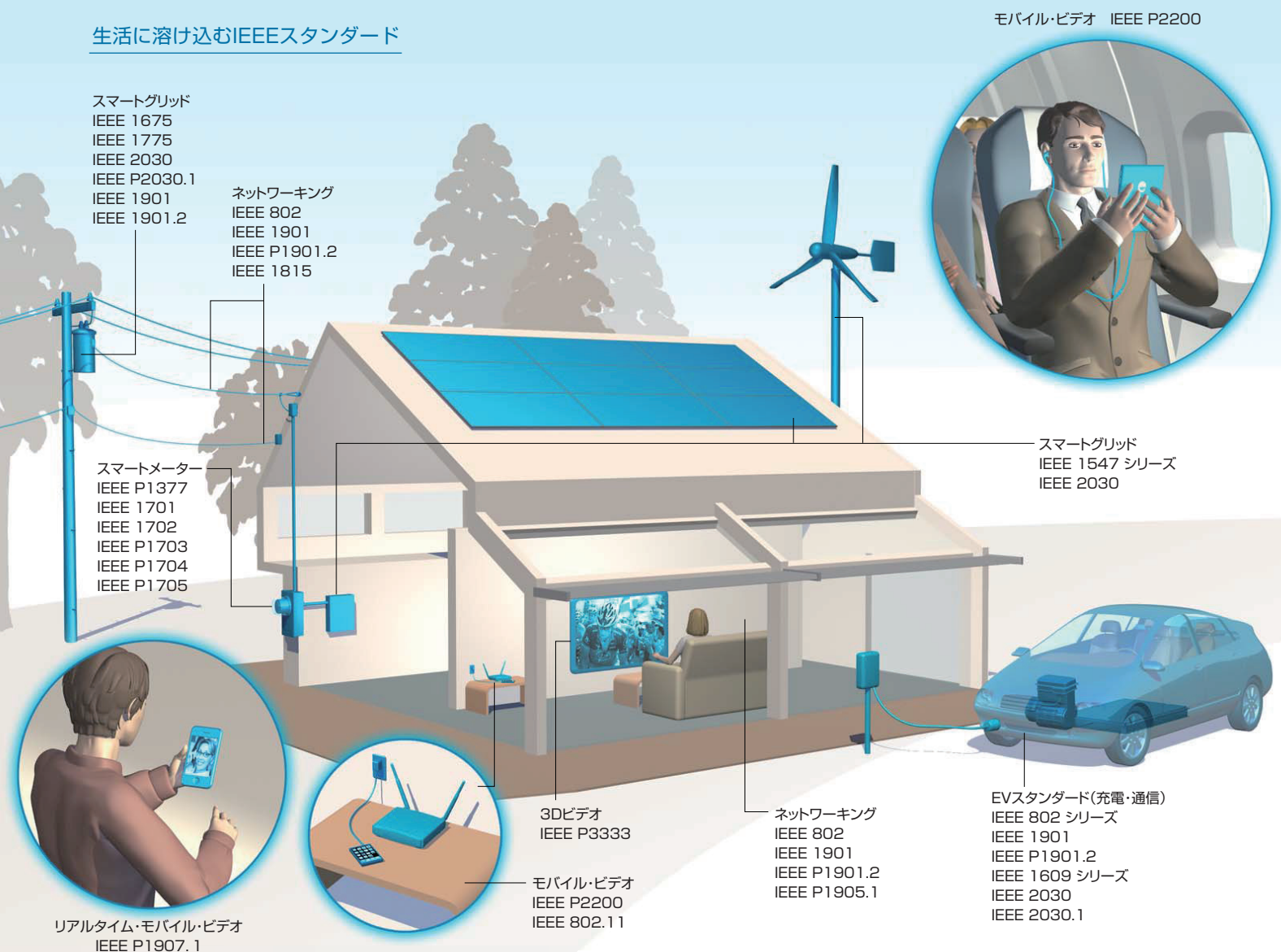


標準化を行うことにより、私たちの生活や仕事、コミュニケーションなどにおける様式を変えるような様々な製品やサービスの機能性や相互運用性が高まります。IEEE-SAはIEEE組織の一部門で、IEEEにおける標準化活動を行います。

IEEEの標準化プロセスは公開されており、参加者に対して手続きの正当性、開放性、コンセンサス、バランス、そして審判請求権を守ることにより、常に公平で民主的な手段で達成されます。

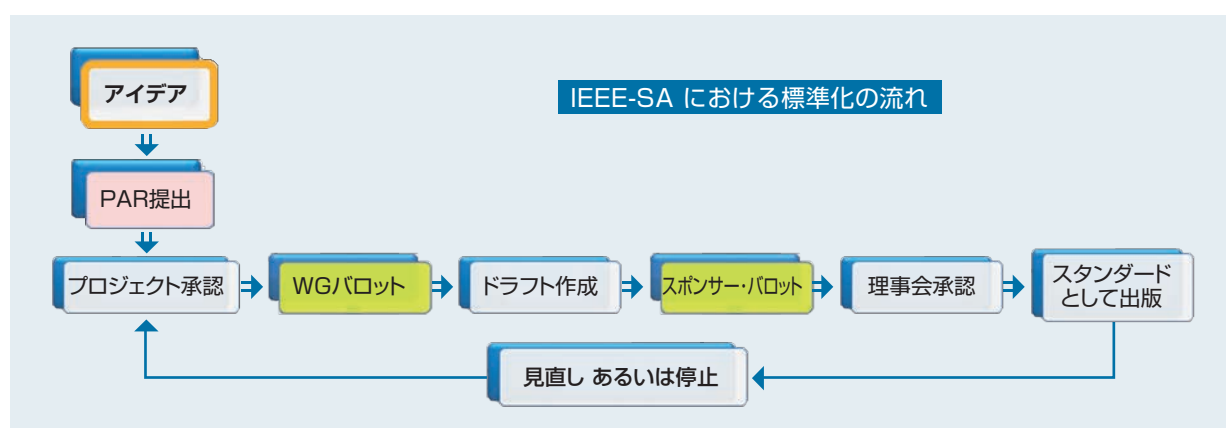
現在IEEEでは900件以上のスタンダードが実用化され、500件以上が開発中です。

生活に溶け込むIEEEスタンダード



IEEE会員であることとIEEE-SA会員であることは異なります。IEEE会員になれるのは個人のみである一方、IEEE-SA会員は個人でも団体でもなれます。IEEE-SAのメンバーシップは、その会員がIEEEでの標準化作業に参加することを前提としています。

- IEEEで標準化したい案件があれば、アイデアの段階では大雑把なものでも具体的なものでも構いません。ただ、標準化を進めるには一個人ではなくグループの協力と同意が必要となります。IEEE-SAで標準化プロジェクトを開始するには、その提案者はまずPAR (Project Application Request)をそのプロジェクトの「スポンサー」に提出する必要があります。PARが認可されると「スポンサー」はその標準化したい案件に責任を持ち、技術的な監督を行います。「スポンサー」は通常はIEEEのソサイエティが務め、提案したい標準化プロジェクトの分野や領域によって複数のソサイエティが務めることもあります。IEEE-SAはスポンサーに適当なソサイエティを決めるお手伝いもします。
- PARをスポンサーの審査にかなうものにしたい人たちは、集まってPAR提出前に議論を重ねたいかもしれません。その集まりをスタディ・グループと呼び、このグループがPAR承認後に実際に標準化の議論を重ねるワーキング・グループ(WG)に発展することもあります。
- IEEEの標準化活動には2つのカテゴリーがあります。ひとつはIEEE-SAの個人会員および非会員(個人)がWGに参加して議論を重ねて開発に至るもの(Individual Project)です。もう一方はIEEE-SAの団体会員によって議論と開発がされるもの(Entity Project)です。団体会員には企業、教育機関および政府機関などがなれます。団体会員はIEEE-SAにおけるいずれのEntity Projectにも参加でき、それらのWG情報は団体会員のみに開示されます。IEEEで標準化をしたい案件がある場合、それをIndividual ProjectとしたいかEntity ProjectにしたいかはPAR提出の際に示し、決定するのはスポンサーとなります。Individual ProjectのWGの議論にはIEEE会員でも、IEEE、IEEE-SAいずれの非会員でも参加することができます。



- WGでの議論がある程度進んだ段階で、WG参加者によってそのスタンダードの主な仕様の可否を決める投票(バロット)が行われます。WGバロットでの投票権は各WGのルールに従って与えられます。例えば通信規格のIEEE802WGの場合、参加者が投票権を得るためにはWGミーティングに3回の出席が必要となります。WGミーティングは2か月に1回開催されるので、これには半年を要します。
- WGバロットを経てスタンダード開発の議論がさらに進み、それをドラフト化する段階でスポンサー・バロットを行います。スポンサー・バロットで投票できるのは基本的にIEEE-SA会員に限られますが、そのWGのメンバーである必要はありません。しかしそのスタンダードの仕様を議論する上ではWGバロットがより重要です。スポンサー・バロットではIEEE-SAの非会員でも1回のみ有効の投票権を購入して投票に参加することもできます。このスポンサー・バロットを経てそのスタンダードはIEEE-SA理事会で承認の運びとなり、発効します。